

税金がもたらした経済効果と課題

名古屋市立丸の内中学校3年 伊庭 和奏

「税金」という言葉を聞くと、あまりいいイメージが湧かない。中学生の私は消費税くらいしか税金を納めたことがないはずなのになぜだろう。おそらく、テレビや新聞などのマスメディアでの税金についての報道はマイナスな印象を与える否定的なものが多く、肯定的な報道をあまり見かけないからだろう。確かに、お金を稼ぐということは大変なことだから税金を納めるのは決して楽なことではないだろう。

世間からの風当たりが強く、あたかも国民の敵のような扱いを受けている税金だが、人々の暮らしを豊かな方向へ導いたことはないのだろうか。

インターネットで税金について調べてみると、税金がある県に大きな経済波及効果をもたらした事例があることが分かった。その県では立地の条件が良く、国内での半導体産業を成長させるために世界的な半導体メーカーの工場が日本で初めて建設されるという国家プロジェクトが行われた。その工場は国民からの多額の税金が原資となって建てられている。近年、半導体の需要は増加しており半導体の市場規模は拡大していくと考えられているため、工場への働き手がたくさんその県に移住してきた。それによって働き手から所得税や住民税、法人税などを納めてもらうことができ、交通量も増え、インフラの整備も進んでいる。結果的にその県の経済を回すことができた。これは税金が効果的に使われ、人々の生活を豊かにした一例だと思う。

だが、いい効果だけではなく解決しなければならない問題が浮かび上がってきているのも事実である。その問題とは、先述した工場が好待遇すぎるあまり人々がそこへ流れすぎてしまっており中小企業の人手不足を招いているというものだ。中小企業は人材を確保するために給与を上げるなどの対策をしているが効果はあまりなく、悲鳴を上げている企業が多く存在する。また、私は今後増える半導体工場の働き手の量に比例して運搬なども含み交通量がかなり増えるのではないかと考えた。ある程度なら工場によって生まれた税金などでインフラの整備が可能だと思うが必ず限界があるため整備の資金が不足したり道路の完成が間に合わず、交通渋滞トラブルの発生なども考えられると思う。これらの問題が今後の課題となっていくだろう。

私は今回税金のことを調べるまで、こんなにも国家プロジェクトに税金が使われていると知らなかった。また、どのプロジェクトにも少なからず問題があるとはいえど、県の経済を大きく回せるほどの影響力を持っているとは思わなかった。だから、私はこれからももっと税金について学んでいく必要があると思う。税金は国民の敵ではなく、むしろ味方であり人々の生活を豊かにすると分かった。私も将来税金を納めるときには国を豊かにするという意識をもって納税したい。